

地域のシンボリックな生きものの保全から 環境保全意識の高い地域づくり

兵庫県 : NPO 法人コウノトリ市民研究所 しみんけんきゅうじょ

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

地域の自然の理解と感性の育成により、地域づくり支援を高めること

【経緯】

ビオトープの生きもの調査を実施する中で、子どもたちの自然体験や、地域の住民、農家などの地域の自然環境を理解することを支援する取り組みとして、生態調査活動、自然体験活動などを開始した。



コウノトリ

○環境保全施設

【環境保全施設】環境保全型排水路、魚巢、水田魚道等（該当地域内）

【活用した事業等】県営生態系保全型排水路事業、
生態系保全型水田整備推進事業等各種事業

【保全対象生物】里地の生物全般

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 生態調査活動

①多彩なフィールドを対象とした調査

- ・各地域の子どもたちや農家などを対象に、水田、水路、小川、里山、草地など様々な場所が活動の場となり、対象生物などのテーマを決めて実施

2. 交流会・体験学習

①田んぼの学校

- ・田んぼで生きもの探し。親子で参加してもらい、お昼は参加者でシカやイノイシシの肉と野菜の鍋を用意

②自然を食べる会の開催

- ・野草を食べる会やそば打ち体験など、食を通じた体験活動を実施

3. 広報活動

①ホームページ運営など

- ・活動内容、活動参加者の募集など、情報発信ツールとしてホームページを活用



水田魚道と水田



活動で採集した生きものの観察

○継続した活動でこんな効果が！！



お昼のシカ鍋

■参加者によるお昼ご飯の準備

・イベント時に参加者自らがシカやイノシシの鍋をふるまう活動が継続して実施されており、住民による地域づくりの一助となっている。

■周辺地域住民の自然に対する関心度の向上

・様々な主体による豊岡市全体の自然体験活動が活性化している。地域に出かけておこなう出張田んぼの学校は、年々数が増えている、地域の自然に対する関心が高まっている。

○課題・苦労した点

■活動の拡大に伴うスタッフの不足

・NPOのメンバーは原則仕事を持っているため、ボランティアで行っている。そのため、活動の幅が広がることでスタッフは不足してしまう。



○工夫した点

■経験者のスカウトや若年層スタッフの育成

・スタッフを増やすための策として、短期的には経験者（退職した理科の先生など）のスカウト、長期的には若いNPOスタッフの職場作りと育成をしている。

■地域住民主体の活動

・地域力の向上を目指し、地域の主体性を大切にし、必要なことだけ援助することになっている。地域の協力があると少人数のスタッフでも実施可能となる。

○活動の特徴！！

■住民主体の保全活動で地域への定着

・地域住民主体を活動の基本として、すべてを当団体で完結せず、必要なことだけ援助することで地域への保全活動として定着を促進し、継続可能な保全活動に繋がっている。



○団体の概要は？

- ・平成10年度に設立され、活動エリアは兵庫県豊岡市各地としている。
- ・NPO法人であり、人数は26名。
- ・年間運営費（NPO全体）は、指定管理委託料96%、事業収入2%、会費2%の割合となっている。
- ・年間活動日数（環境学習面）は、約40日である。

